



## 2019年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年8月9日

上場会社名 株式会社IBJ 上場取引所 東  
 コード番号 6071 URL https://www.ibjapan.jp/  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石坂 茂  
 問合せ先責任者 (役職名) 財務経理部統括 (氏名) 小平 佳洋 TEL 050 (1745) 1194  
 四半期報告書提出予定日 2019年8月13日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

### 1. 2019年12月期第2四半期の連結業績（2019年1月1日～2019年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年12月期第2四半期	7,473	55.7	1,082	63.9	1,106	68.6	722	69.6
2018年12月期第2四半期	4,800	8.6	660	△1.0	656	△2.2	425	△2.0

(注) 包括利益 2019年12月期第2四半期 829百万円 (87.3%) 2018年12月期第2四半期 442百万円 (1.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年12月期第2四半期	18.33	18.14
2018年12月期第2四半期	10.65	10.51

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年12月期第2四半期	10,345	4,406	39.1	102.43
2018年12月期	7,559	3,556	46.6	89.54

(参考) 自己資本 2019年12月期第2四半期 4,041百万円 2018年12月期 3,524百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年12月期	—	0.00	—	9.00	9.00
2019年12月期	—	0.00	—	—	—
2019年12月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無  
 期末日時点における配当予想は未定であります。

### 3. 2019年12月期の連結業績予想（2019年1月1日～2019年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	15,055	27.4	1,800	21.9	1,848	25.9	1,255	19.5	31.51

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有  
新規2社 （社名）株式会社サンマリエ、株式会社K Village Tokyo

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年12月期 2 Q	41,424,900株	2018年12月期	41,337,300株
② 期末自己株式数	2019年12月期 2 Q	1,971,517株	2018年12月期	1,971,516株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年12月期 2 Q	38,937,479株	2018年12月期 2 Q	40,002,256株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、この四半期決算短信（添付資料）P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法)

四半期決算補足説明資料はT D n e t で同日開示しています。

(四半期決算説明会内容の入手方法)

当社は、2019年8月13日（火）に機関投資家・アナリスト向け説明会を開催する予定です。

(日付の表示方法の変更)

「2019年12月期 第1四半期決算短信」より、日付の表示方法を和暦表示から西暦表示に変更しております。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報)	10
(追加情報)	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、堅調な雇用・所得環境を背景に、個人消費や公共投資の回復など、底堅い国内需要に支えられ、全体として引き続き緩やかな景気回復基調が続きました。一方、世界経済の先行き不透明感は強く、我が国の景気を下押しするリスクは依然として含んでおります。

このような状況のもと、当社グループは、「日本の成婚の3%をIBJが創出する」中期経営計画実現に向けて、新たにアンバサダーを起用するなど、婚活事業の更なる認知度を高めるとともに、真剣な婚活ユーザーをターゲットとした、創業38年を迎える結婚相談所サンマリエのブランド力を持つサンマリエ社を新たに連結子会社にする事により、会員基盤の拡大と婚活会員数の増加に努めております。また、韓国語教室の運営と人材紹介を事業とするK Village Tokyo社を連結子会社とすることにより、国際交流の場を提供し、国際結婚への足がかりにするとともに、旅行、保険、住宅ローンに加え、外国人材の就労支援など、婚活から広がる周辺領域をワンストップでサポートするなど、ライフデザイン事業の拡充強化を図っております。また、従来より非連結子会社であったIBJファイナンシャルアドバイザー株式会社は、シニア分野のヘルスケア事業に着手し、連結子会社とすることで、新たな領域での売上獲得を目指しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は7,473,964千円（前年同期比55.7%増）、営業利益は1,082,513千円（同63.9%増）、経常利益は1,106,399千円（同68.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は722,032千円（同69.6%増）と前年同期に比べ増加しました。

セグメントごとの業績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、株式会社サンマリエ、株式会社K Village Tokyoが新規連結子会社になったこと、また、IBJファイナンシャルアドバイザー株式会社が非連結子会社から連結子会社となったこと、また、事業の業績の明確化の観点から、報告セグメントの区分を変更しております。

以下の前四半期比較については、前年四半期の数値を変更後のセグメントに組み替えた数値で比較しております。

詳細につきましては、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報等）」をご参照ください。

（セグメント別の概況）

## ＜婚活事業＞

当セグメントは、コーポレート事業、連盟事業、FC事業、コミュニティ事業、イベント事業、ラウンジ事業より構成されております。

当第2四半期連結累計期間は、

- ・コーポレート事業において、アンバサダーを起用し、知名度を広めると共に、結婚相談事業者等の新規開業支援の強化により、加盟相談所数が増加したこと、
- ・連盟事業において、IBJシステム（お見合い管理システム）の機能を増強し、AIを利用したマッチングなどサービス提供のバリエーションを増やしたことや、加盟店集客支援ツールのリニューアルを行い、有料プランの追加利用の増加を図ったこと、
- ・イベント事業において、アプリのダウンロードを促進し、それに伴って申し込みが増加したこと、また、パーティーのサービスの質の向上を図り、満席率が向上したことや、ゴールデンウィークの大型化により参加者が増加したこと、
- ・ラウンジ事業において、男性会員比率の増加など、定員制ラウンジのクオリティ強化を図り、お見合い件数と成婚数の増加に継続的に取り組んだこと、
- ・株式会社Diverseや、株式会社サンマリエが新たに婚活事業に加わったこと、

などの理由により、セグメント売上高は5,170,526千円（前年同期比78.9%増）、セグメント利益は1,618,996千円（同30.4%増）となりました。

## ＜ライフデザイン事業＞

当セグメントは、ウェディング事業、旅行事業、外国語教室の運営事業、シニア部門におけるヘルスケア事業より構成されております。

当第2四半期連結累計期間は、

- ・ウェディング事業において、パンフレット制作の受注が増加したこと、また、雑誌のリニューアルに伴う新規の広告掲載数の増加や、それに伴う式場への送客が増加したこと、
- ・旅行事業において、ゴールデンウィークの大型化により海外旅行者が増加したこと、
- ・株式会社K Village TokyoとIBJファイナンシャルアドバイザー株式会社が新たにライフデザイン事業に加わったこと、

などの理由により、セグメント売上高は2,303,437千円（前年同期比20.6%増）、セグメント利益は72,319千円（前年同期比195.1%増）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態の状況については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前連結会計年度との比較・分析を行っております。

### ①資産、負債及び純資産の状況

#### (資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は5,816,780千円となり、前連結会計年度末に比べ788,369千円増加いたしました。これは主に現金及び預金が442,788千円、売掛金が219,689千円増加したことによるものであります。固定資産は4,528,271千円となり、前連結会計年度末に比べ1,997,630千円増加いたしました。これは主にのれんが526,564千円、投資有価証券が202,445千円、長期貸付金が1,109,217千円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は10,345,051千円となり、前連結会計年度末に比べ2,785,999千円増加いたしました。

#### (負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は3,707,436千円となり、前連結会計年度末に比べ935,936千円増加いたしました。これは主に、短期借入金が155,000千円、未払法人税等が172,307千円、1年内返済予定の長期借入金が237,000千円増加したことによるものであります。固定負債は2,231,615千円となり、前連結会計年度末に比べ1,000,395千円増加いたしました。これは主に長期借入金が933,820千円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は5,939,051千円となり、前連結会計年度末に比べ1,936,295千円増加いたしました。

#### (純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は4,406,000千円となり、前連結会計年度末に比べ849,703千円増加いたしました。これは主に配当金の支払354,292千円、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上722,032千円、非支配株主持分の計上333,345千円によるものであります。

この結果、自己資本比率は39.1%（前連結会計年度末は46.6%）となりました。

### ②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べて442,788千円増加し、4,302,223千円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動により得られた資金は、997,446千円（前年同四半期に得られた資金は389,428千円）となりました。主な要因は、税金等調整前四半期純利益1,106,749千円、減価償却費112,320千円、売上債権の増加額166,945千円、法人税等の支払額又は還付額による支出240,355千円等であります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動により使用した資金は、1,511,563千円（前年同四半期に使用した資金は240,798千円）となりました。主な要因は、長期貸付による支出1,105,900千円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出382,908千円等であります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動により得られた資金は、944,665千円（前年同四半期に得られた資金は139,961千円）となりました。主な要因は、長期借入れによる収入1,400,000千円、配当金の支払額352,500千円等であります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年2月14日公表の2019年12月期第2四半期連結累計期間の業績予想と、2019年12月期第2四半期連結累計期間の実績との差異につきましては、本日公表の「業績予想と実績値の差異に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、2019年12月期通期業績予想につきましては、現在精査中であり、業績予想の修正が必要となった場合には、速やかに開示する予定です。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,832,908	4,275,697
売掛金	939,369	1,159,058
商品及び製品	1,257	5,061
仕掛品	2,299	3,674
原材料及び貯蔵品	52	55
前渡金	105,059	148,629
前払費用	105,448	137,745
未収還付法人税等	0	-
1年内回収予定の長期貸付金	-	2,400
その他	43,880	85,955
貸倒引当金	△1,866	△1,499
流動資産合計	5,028,411	5,816,780
固定資産		
有形固定資産		
建物	541,704	653,811
減価償却累計額	△197,097	△228,825
建物(純額)	344,606	424,985
車両運搬具	19,848	19,848
減価償却累計額	△4,543	△7,432
車両運搬具(純額)	15,305	12,415
工具、器具及び備品	410,119	396,649
減価償却累計額	△274,269	△281,310
工具、器具及び備品(純額)	135,850	115,339
リース資産	-	13,605
減価償却累計額	-	△563
リース資産(純額)	-	13,041
有形固定資産合計	495,762	565,782
無形固定資産		
のれん	379,932	906,496
ソフトウェア	294,141	274,971
その他	2,461	2,461
無形固定資産合計	676,535	1,183,929
投資その他の資産		
投資有価証券	272,000	474,445
関係会社株式	137,642	107,687
長期貸付金	-	1,109,217
長期前払費用	3,229	3,462
繰延税金資産	141,055	134,253
差入保証金	613,068	759,368
その他	191,348	190,123
投資その他の資産合計	1,358,343	2,778,559
固定資産合計	2,530,640	4,528,271
資産合計	7,559,052	10,345,051

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	148,079	132,909
短期借入金	260,000	415,000
1年内返済予定の長期借入金	295,360	532,360
未払金	292,403	300,750
未払費用	417,595	461,473
未払法人税等	230,343	402,650
未払消費税等	82,868	118,019
前受金	982,613	1,156,085
賞与引当金	-	48,112
返品調整引当金	10,203	6,995
ポイント引当金	24,715	25,078
その他	27,318	108,000
流動負債合計	2,771,500	3,707,436
固定負債		
長期借入金	1,102,220	2,036,040
リース債務	-	14,859
資産除去債務	129,035	180,715
固定負債合計	1,231,255	2,231,615
負債合計	4,002,755	5,939,051
純資産の部		
株主資本		
資本金	616,195	627,218
資本剰余金	616,195	708,729
利益剰余金	3,214,742	3,566,559
自己株式	△1,007,676	△1,007,677
株主資本合計	3,439,455	3,894,829
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	85,308	146,526
その他の包括利益累計額合計	85,308	146,526
新株予約権	31,532	31,298
非支配株主持分	-	333,345
純資産合計	3,556,296	4,406,000
負債純資産合計	7,559,052	10,345,051

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)
売上高	4,800,075	7,473,964
売上原価	1,838,583	1,953,932
売上総利益	2,961,492	5,520,031
返品調整引当金繰入額	2,148	8,544
差引売上総利益	2,959,343	5,511,486
販売費及び一般管理費	2,298,833	4,428,972
営業利益	660,510	1,082,513
営業外収益		
受取利息	27	177
受取配当金	108	130
為替差益	526	123
補助金収入	400	-
投資事業組合運用益	-	26,311
その他	855	2,943
営業外収益合計	1,917	29,686
営業外費用		
支払利息	3,907	4,916
投資事業組合運用損	2,037	-
その他	81	883
営業外費用合計	6,025	5,800
経常利益	656,401	1,106,399
特別利益		
事業譲渡益	-	4,629
特別利益合計	-	4,629
特別損失		
固定資産除却損	16,633	2,571
関係会社株式評価損	-	1,454
その他	1,674	252
特別損失合計	18,307	4,279
税金等調整前四半期純利益	638,093	1,106,749
法人税、住民税及び事業税	202,849	373,915
法人税等調整額	9,414	△20,216
法人税等合計	212,264	353,698
四半期純利益	425,829	753,050
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	31,017
親会社株主に帰属する四半期純利益	425,829	722,032



(四半期連結包括利益計算書)  
 (第 2 四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2018年 1 月 1 日 至 2018年 6 月 30 日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2019年 1 月 1 日 至 2019年 6 月 30 日)
四半期純利益	425,829	753,050
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	16,887	76,132
その他の包括利益合計	16,887	76,132
四半期包括利益	442,717	829,183
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	442,717	798,165
非支配株主に係る四半期包括利益	—	31,017

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	638,093	1,106,749
減価償却費	96,103	112,320
のれん償却額	10,745	110,763
長期前払費用償却額	1,095	1,373
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△1,584	△970
賞与引当金の増減額 (△は減少)	-	47,607
返品調整引当金の増減額 (△は減少)	△11,920	△3,208
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	-	363
受取利息及び受取配当金	△135	△307
支払利息	3,907	4,916
関係会社株式評価損	-	1,454
固定資産除却損	16,633	2,571
投資事業組合運用損益 (△は益)	2,037	△26,311
事業譲渡損益 (△は益)	-	△4,629
売上債権の増減額 (△は増加)	24,562	△166,945
前渡金の増減額 (△は増加)	△34,491	△41,229
預け金の増減額 (△は増加)	-	△3,561
たな卸資産の増減額 (△は増加)	269	△3,145
仕入債務の増減額 (△は減少)	△27,201	△42,544
前受金の増減額 (△は減少)	59,909	114,097
未払金及び未払費用の増減額 (△は減少)	9,185	△14,926
その他	△67,353	46,755
小計	719,855	1,241,191
利息及び配当金の受取額	135	155
利息の支払額	△4,018	△3,544
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△326,543	△240,355
営業活動によるキャッシュ・フロー	389,428	997,446
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△86,156	△15,450
無形固定資産の取得による支出	△112,248	△30,280
投資有価証券の取得による支出	△9,000	△117,999
投資有価証券の売却による収入	-	29,992
貸付けによる支出	-	△1,105,900
貸付金の回収による収入	-	1,200
敷金及び保証金の差入による支出	△46,042	△90,786
敷金及び保証金の回収による収入	16,150	1,619
子会社株式の売却による収入	-	105,982
事業譲渡による収入	-	5,000
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	△382,908
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	-	87,924
その他	△3,500	43
投資活動によるキャッシュ・フロー	△240,798	△1,511,563

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
新株予約権の行使による株式の発行による収入	81,765	21,812
新株予約権の発行による収入	29,765	-
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△1,500	-
短期借入金の増減額 (△は減少)	-	105,000
長期借入れによる収入	570,000	1,400,000
長期借入金の返済による支出	△184,180	△229,180
配当金の支払額	△355,101	△352,500
その他	△787	△466
財務活動によるキャッシュ・フロー	139,961	944,665
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	288,592	430,549
現金及び現金同等物の期首残高	3,607,498	3,859,434
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	12,239
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,896,091	4,302,223

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

## 【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自2018年1月1日 至2018年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	婚活事業	ライフデザイン 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,890,679	1,909,396	4,800,075	-	4,800,075
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	400	400	△400	-
計	2,890,679	1,909,796	4,800,475	△400	4,800,075
セグメント利益	1,242,021	24,510	1,266,531	△606,021	660,510

(注) 1. セグメント利益の調整額△606,021千円は、のれん償却額△10,745千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△595,276千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

## II 当第2四半期連結累計期間(自2019年1月1日 至2019年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	婚活事業	ライフデザイン 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	5,170,526	2,303,437	7,473,964	-	7,473,964
セグメント間の内部 売上高又は振替高	240	-	240	△240	-
計	5,170,766	2,303,437	7,474,204	△240	7,473,964
セグメント利益	1,618,996	72,319	1,691,316	△608,802	1,082,513

(注) 1. セグメント利益の調整額△608,802千円は、のれん償却額△110,763千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△498,038千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

株式会社サンマリエ、株式会社K Village Tokyoが新規連結子会社になったことや、IBJファイナンシャルアドバイザー株式会社が非連結子会社から連結子会社となったこと、また事業の業績の明確化の観点から、第1四半期連結会計期間より報告セグメントの区分方法の見直しを行い、「コーポレート事業」、「コミュニティ事業」、「ラウンジ事業」、「ライフデザイン事業」から「婚活事業」、「ライフデザイン事業」に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。